

## 山に逃げる

嘉永7年(1854)11月4日と5日に地震が起こり、5日の地震後の津波により甚大な被害が発生しました。地震後は津波に備えてできるだけ早く山に逃げる、逃げた後むやみに家財を取りに家に戻らないことを、徳島県海陽町と高知県香南市の例は伝えています。

### ■穴喰の愛宕山(徳島県海陽町)

安政南海地震津波が穴喰(現海陽町)を襲った時の状況は、田井久左衛門宣辰の「震潮記」に克明に書き残されています。要旨は以下のとおりです。11月5日申の下刻(午後4時頃)に極大の地震が起こり、地面が裂け渡り泥水を吹き上げ、家々の軒は落ち、瓦は飛び、壁は落ち、家は潰れました。人々は老人、病人、幼い者などを助け、揺られながら近い山々に逃げ登りました。愛宕山に逃げ登ったのは572人でした。たちまち逆波が三度来りました。浜辺に居合わせて船に乗った人は、逆波に打ち返されて溺死しました。このような場合には決して船に乗ってはならない、できるだけ早く近くの山に逃げ登ることが肝要で、逃げ遅れた人は命をなくす、と記されています。<田井晴代訳「震潮記」2006年、穴喰町教育委員会編「穴喰町誌 上巻」1986年、中島源著「穴喰風土記」1969年など>



愛宕山への登り口



愛宕山の中腹から海方向



(地理院地図に加筆)

### ■夜須の観音山(高知県香南市)

夜須町(現香南市)の観音山には安政南海地震津波の記念碑が建っています。「奉納延命十句観音経一百万遍也 為万民安全長久」で始まる碑文には、地震・津波の状況、その時の人々の様子、教訓が記されています。11月5日夕七ツ時(午後4時頃)に大地震があり、日入頃に一番波が来て、人々は食物、衣類を持って観音山に持ち運び、数百人が助かりました。観音山は「命の山」です。その後、二番波が来て、さらに五ツ時(午後8時頃)には三番波が来て、一度に家、蔵を流失させ、跡は白浜となり、目も当てられないようになりました。宝物を家に残すも再び我が家に帰るべからず、これ肝要なり、と記されています。<観音山の記念碑、夜須町史編纂委員会編「夜須町史 上巻」1984年、橋詰延寿著「夜須町風土記」1969年>



観音山への階段



観音山の記念碑



(地理院地図に加筆)